

# 2021年3月期 第2四半期決算説明資料



GENDAI AGENCY Inc.

2020年10月16日



P3 第2四半期 損益計算書(連結)

P4 事業の種類別セグメント

**【広告事業】**

P5 第2四半期 損益計算書

P6 品目別売上高の推移

P7 顧客の状況

P8 従業員の状況

**【不動産事業】**

P9 第2四半期 損益計算書

P10 第2四半期 連結貸借対照表

P11 第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

P12 2021年3月期 連結業績予想について

P13 配当予想に関して

# 第2四半期 損益計算書(連結)

(単位：百万円)

	当第2四半期累計	構成比	前第2四半期累計	構成比	前年同期比
売上高	3,131	100.0%	5,768	100.0%	54.3%
営業利益 (△は損失)	▲344	—	285	4.9%	—
経常利益 (△は損失)	▲344	—	253	4.4%	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (△は損失)	▲362	—	24	0.4%	—

## <四半期連結会計期間別：内訳>

(単位：百万円)

	第1四半期	第2四半期	累計
売上高	1,046	2,085	3,131
営業利益 (△は損失)	▲346	2	▲344
経常利益 (△は損失)	▲346	2	▲344
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (△は損失)	▲355	▲7	▲362

□ パチンコホール業界においては、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2020年4月7日(当初7都府県、4月16日には全国に拡大)に発令された、政府の緊急事態宣言に基づく各都道府県からの休業要請を受け、大多数のパチンコホールが休業する異例の事態となり、5月中旬から下旬にかけて、段階的に宣言が解除されるまでの期間継続し、パチンコホール経営企業に多大な影響を与えることとなりました。

□ さらに、2020年3月より全国のパチンコホールにおいて、集客を目的とした広告宣伝が自粛され、広告需要は著しく減少しました。6月に入ると、広告宣伝が段階的に再開され、7月に入ると、店舗施設における集客活動の正常化に向けた動き出しもあり、広告需要は回復基調に転じました。

□ こうした環境下で、当社グループでは主力の広告事業において、コロナ禍において安全で安心の店舗施設利用を打ち出した各種広告企画の立案と提案活動をすすめてまいりました。また、パチンコホール広告以外の分野における新規顧客開拓活動に重点的に取り組んでまいりました。

□ その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,131百万円(前年同期比45.7%減)、営業損失は344百万円(前年同期は285百万円の利益)、経常損失は344百万円(前年同期は253百万円の利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失は362百万円(前年同期は24百万円の利益)となりました。

## ■当第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	連結
売上高	3,101	25	3	—	3,131
セグメント利益 (△は損失)	▲174	5	▲5	▲169	▲344

## ■前年同期比

(単位：百万円)

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	連結
売上高	▲2,554	▲49	▲32	—	▲2,637
セグメント利益	▲675	▲39	93	▲8	▲629

□ 7月以降、各セグメントにおける需要は回復傾向にあるものの、6月以前の新型コロナウイルス感染拡大の影響は大きく、第2四半期累計期間において、各セグメントとも売上高は大幅に減少しました。その結果、連結ベースの売上高は、前年同期比で2,637百万円の減少となりました。

□ その他の前年同期比の大幅な変動は、主として前連結会計年度末において、東南アジアにおけるカジノ運営受託事業を営んでいた子会社GDLH Pte Ltd.の株式譲渡により、連結の範囲から除外したことによるものです。

# 第2四半期 損益計算書(広告事業)

(単位：百万円)

広告事業	当第2四半期累計	前第2四半期累計	前年同期比
売上高	3,101	5,656	54.8%
営業費用	3,275	5,155	63.5%
セグメント利益 (△は損失)	▲174	501	—

<四半期連結会計期間別：内訳>

(単位：百万円)

	第1四半期	第2四半期	累計
売上高	1,036	2,065	3,101
営業費用	1,282	1,993	3,275
セグメント利益 (△は損失)	▲246	72	▲174

## 外部環境>

- 政府の緊急事態宣言に基づく各都道府県からの休業要請を受け、大多数のパチンコホールが5月中旬から下旬まで休業。さらに、全国的な集客のための広告宣伝自粛により、広告需要は激減。
- フィットネス施設広告分野においても、フィットネス施設の相次ぐ休業等により、広告需要は低調に推移。
- 6月に入り、段階的に広告活動は再開、7月以降広告需要は回復傾向。

## 当社の取り組み>

- テレワークの環境下でも、必要なサービスが安定的に提供できる体制を整備。
- クライアントの情報収集と広告活動再開を見据えた、動画広告サービス等の、新サービスの企画立案、提案活動。
- 通販広告を手掛ける連結子会社ユーアンドユー社における、通販以外の新分野開拓活動。
- 営業拠点の集約等を開始し、新しい働き方への対応と、間接コスト削減の準備。

## 結果>

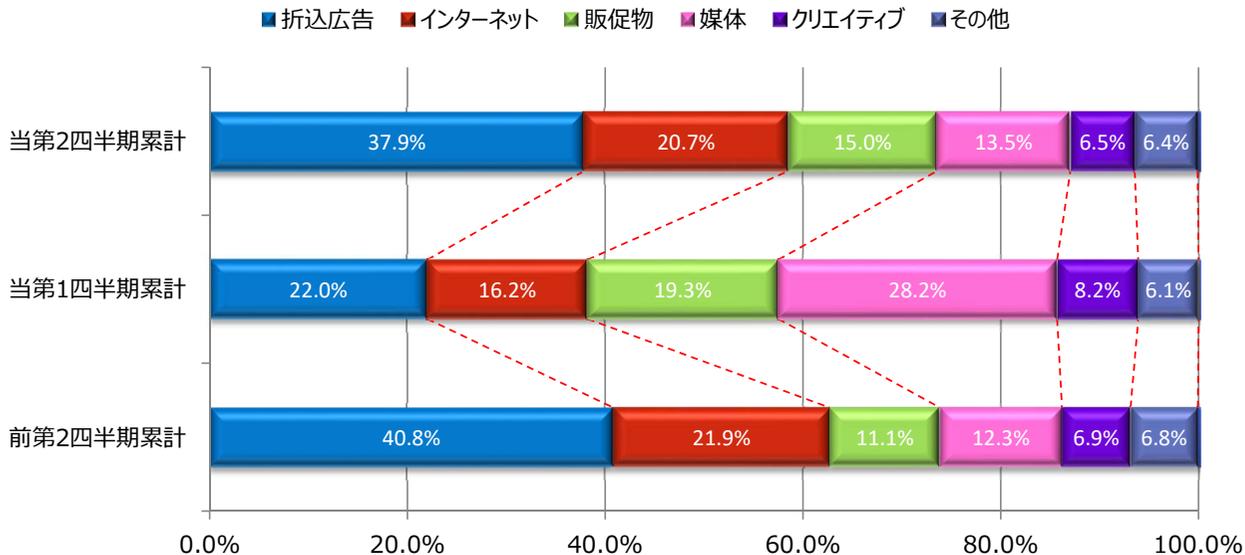
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、広告分野の需要減退が大きく影響したことから、売上高は3,101百万円(前年同期比45.2%減)、セグメント損失は174百万円(前年同期は501百万円の利益)となりました。

# 品目別売上高の推移(広告事業)

(単位：百万円)

	当第2四半期累計	構成比	前年同期	構成比	前年同期比
折込広告	1,174	37.9%	2,309	40.8%	50.9%
インターネット	641	20.7%	1,238	21.9%	51.8%
販促物	466	15.0%	630	11.1%	74.0%
媒体	418	13.5%	698	12.3%	59.9%
クリエイティブ	202	6.5%	392	6.9%	51.5%
その他	197	6.4%	385	6.8%	51.3%
	3,101	100.0%	5,656	100.0%	54.8%

## <品目別構成比>



□ 第1四半期累計期間は、パチンコホール広告分野における収益機会が、店内告知販促物や継続課金型インターネットサービス等に限定されたため、品目別構成比は、正常需要下と比較し、大幅に変動しましたが、7月以降の広告需要回復に伴い、第2四半期累計期間においては、正常需要下の構成比に近づきつつあります。

# 顧客の状況(広告事業)

□ 新型コロナウイルス感染拡大のため、2020年3月から5月にかけて行われた、広告宣伝自粛の影響により、2020年3月単月における、顧客数、顧客単価は大幅な減少となりました。7月以降、パチンコホールにおける広告需要は回復傾向にあるものの、2020年9月単月における顧客数、顧客単価は、正常需要下の前年と比較し、ともに減少となりました。

稼働顧客	2019年9月時点	2020年3月時点	2020年9月時点
顧客数(件) ※1	1,200	917	1,013
顧客客単価(千円) ※2	603	395	519

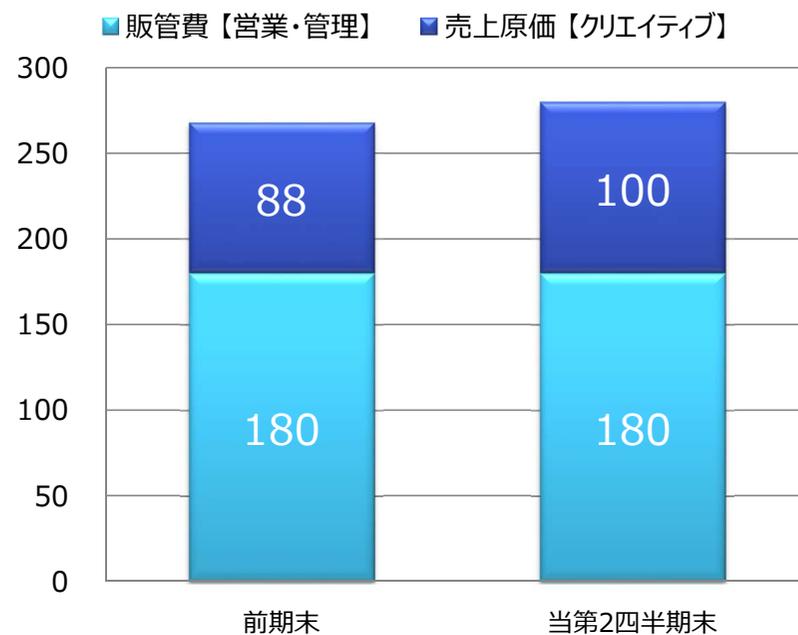
※1：月額取引50千円以上の取引先(パチンコホール)を対象としています。 ※2：数値は単月実績となります。



# 従業員の状況(広告事業)

(単位：人)

	前期末	当第2四半期末
販管費【営業・管理】	180	180
売上原価【クリエイティブ】	88	100
広告事業計	268	280



- 営業・管理 : 退職者補充のため、11名の新規採用。
- クリエイティブ: 内製化推進による外注コスト削減を目的として、14名新規採用。
- 結果、前期末と比較して12名の増員となりました。

## 第2四半期 損益計算書(不動産事業)

(単位：百万円)

不動産事業	当第2四半期累計	前第2四半期累計	前年同期比
売上高	25	75	34.0%
営業費用	20	31	64.5%
セグメント利益	5	44	11.8%

<四半期連結会計期間別：内訳>

(単位：百万円)

	第1四半期	第2四半期	累計
売上高	9	16	25
営業費用	11	9	20
セグメント利益	▲2	7	5

□ 2017年2月に取得した、千葉県柏市の土地の賃貸案件について、借主の一時休業に伴い、休業期間中の賃料一時減額を実施しました。現在は営業を再開しており、第2四半期以降の賃料は正常化しております。また、当期間中の仲介手数料収益は4百万円でありました。

□ その結果、売上高は25百万円(前年同期比66.0%減)、セグメント利益は5百万円(同88.2%減)となりました。

## 第2四半期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 (A)	当第2四半期末 (B)	差額 (B) - (A)
現金及び預金	4,052	5,082	1,030
受取手形・売掛金	980	1,002	22
その他流動資産	236	109	▲126
有形固定資産	630	611	▲18
無形固定資産	76	73	▲2
投資その他資産	821	821	0
<b>資産合計</b>	<b>6,797</b>	<b>7,702</b>	904
買掛金	489	492	3
短期借入金（一年内返済予定の長期借入金を含む）	200	1,675	1,475
未払法人税等	39	27	▲11
その他流動負債	202	130	▲71
長期借入金	600	675	75
その他固定負債	35	34	▲0
<b>負債合計</b>	<b>1,565</b>	<b>3,034</b>	1,468
株主資本	5,228	4,669	▲559
その他	▲4	▲2	2
非支配株主持分	7	-	▲7
<b>純資産合計</b>	<b>5,231</b>	<b>4,667</b>	▲564
<b>負債・純資産合計</b>	<b>6,797</b>	<b>7,702</b>	904

① 借入の実行により、現金及び預金が1,030百万円の増加となり、資産は904百万円の増加。

② 借入の実行により、負債は1,468百万円の増加。

③ 純資産は四半期純損失362百万円を計上したことに加え、前期決算に係る利益配当195百万円を実施したこと等により、564百万円の減少。

# 第2四半期 連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期
税引前利益（△は損失）	108	▲344
営業活動によるキャッシュ・フロー	170	▲273
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲26	▲37
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲365	1,347
現金及び現金同等物の期首残高	4,399	4,046
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,141	5,076

□ 現金及び現金同等物は、当第2四半期連結累計期間において1,030百万円増加し、5,076百万円となりました。

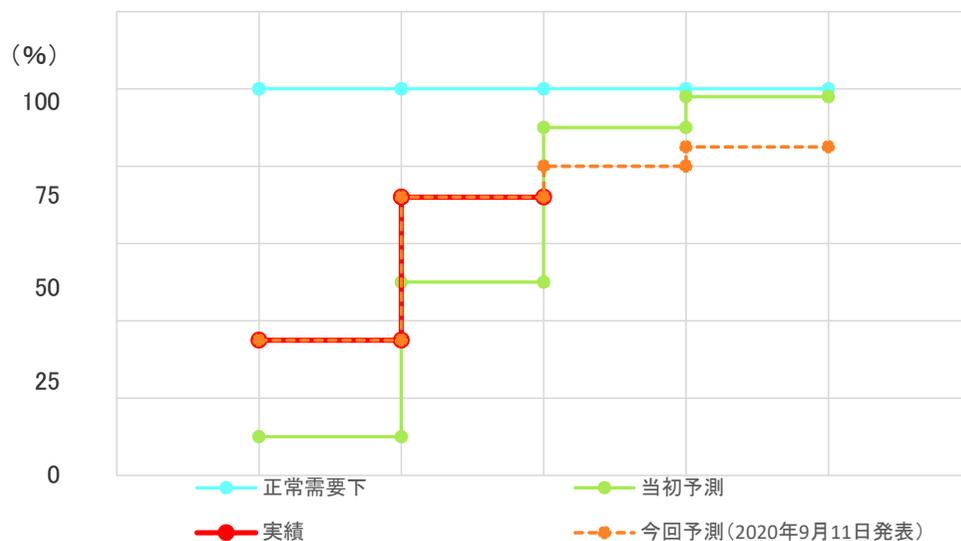
		－ 税引前純損失	344
+ 法人税等の還付	154	－ その他	84
		<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>273</b>
		－ 有形/無形固定資産の取得による支出	43
+ その他	5		
		<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>37</b>
+ 借入金による収入	1,700	－ 借入金返済による支出	150
		－ 配当金の支出	195
		－ その他	7
		<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,347</b>

# 2021年3月期 連結業績予想について (※2020年9月11日修正発表)

(単位：百万円)

	2021年3月期 第2四半期実績 (A)	2021年3月期 通期予想 (B) ※2020年4月17日発表	2021年3月期 通期予想 (C) ※2020年9月11日発表	増減額 (D) (C) - (B)	増減率 (D) ÷ (B)	進捗率 (A) ÷ (C)
売上高	3,131	6,850	7,500	650	9.5%	41.8%
営業利益 (△は損失)	△ 344	△ 650	△ 230	420	-	-
経常利益 (△は損失)	△ 344	△ 650	△ 240	410	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益 (△は損失)	△ 362	△ 650	△ 260	390	-	-

通期予想：売上高進捗状況



□ 4月17日に公表した、2021年3月期の業績予想において用いた、仮定の広告受注額(当第2四半期において、正常需要下の受注量に対し5割減)に対し、実績では約3割減にとどまり、予想を上回りました。

当初は、年内には需要が正常需要まで回復するものと仮定しておりましたが、現時点においてもクライアント店舗施設の来店者数は、コロナ禍前との比較において、依然として大きく減少したままであり、完全な回復までには相当な時間を要するものと見込まれます。

そのため、下半期については4月17日発表予想における仮定の前提を下回るものと予想しております。

以上の要因により、通期の売上高は、4月17日発表予想比で650百万円増加するものと予想しております。

□ 営業損失につきましては、上述の売上高の増額修正に伴う販売マージンの増加約220百万円に加え、コスト削減約200百万円を見込んでいることから、4月17日発表予想比で、損失が420百万円減少する見込みです

## 2021年3月期配当について

	年間配当金（円）		
	第2四半期末（実績）	期末（予想）	合計
2021年3月期	0.00	未定	未定
（ご参考）前期実績 2020年3月期	12.00	13.00	25.00

□ 当第2四半期末の配当に関しましては、上半期における資金流出状況やコロナ禍における依然として不透明な広告市場環境等を勘案し、現時点においては手元資金の確保や、今後の負債残高の調整への資金配分を優先する必要があると判断し、無配といたしました。

□ なお、引き続き未定としている当期末（2021年3月31日）の配当予想につきましては、見通しが可能となった段階であらためて公表いたします。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の情報に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・IR窓口 管理部 Tel.03-5358-3334